

第 27 回日本免疫毒性学会学術年会 プログラム

9月26日(土)

■ 10:00 ~ 10:05 開会式の挨拶

第27回日本免疫毒性学会学術年会 年会長 角田正史

■ 10:10 ~ 13:55 若手セッション< Y-01 ~ Y-08 >

座長 黒田悦史(兵庫医科大学)、小池英子(国立環境研究所)

■ 10:10 ~ 10:25

Y-01 カビ毒フモニシン B1 および B2 の経口曝露がアレルギー性皮膚炎の病態形成に及ぼす影響

○森本藍¹、大河原冬彩¹、相原亮太¹、岩下直樹^{1,2}、高木善市^{1,3}、福山朋季¹

¹麻布大学、²Bioalchemis、³日本 SLC (株)

■ 10:30 ~ 10:45

Y-02 Acute and subacute oral toxicity of deoxynivalenol exposure in a *Dermatophagoides farinae* induced murine asthma model

○Toa Ookawara¹, Ryota Aihara¹, Ai Morimoto¹, Naoki Iwashita^{1,2}, Yoshiichi Takagi^{1,3},

Atsushi Miyasaka⁴, Masayo Kushiro⁵, Shiro Miyake¹, Tomoki Fukuyama¹

¹Azabu university, ²Bioalchemis, ³Japan SLC, Inc.,

⁴Kyushu Okinawa Research Center, NARO, ⁵Food Research Institute, NARO

■ 10:50 ~ 11:05

Y-03 デオキシニバレノール経口曝露がイミキモド誘発マウス乾癬モデルの病態に及ぼす影響

○相原亮太¹、大河原冬彩¹、森本藍¹、岩下直樹^{1,2}、高木善市^{1,3}、宮坂篤⁴、久城真代⁵、三宅司郎¹、福山朋季¹

¹麻布大学、²Bioalchemis、³日本 SLC (株)、⁴(国研) 農研機構九沖農研、

⁵(国研) 農研機構食研

■ 11:10 ~ 11:25

Y-04 HLA 遺伝子導入マウスを用いた HLA 多型依存的な皮膚毒性発症機構の検討

○山田悠士郎、青木重樹、藤森惣大、伊藤晃成

千葉大学大学院 薬学研究院 生物薬剤学研究室

■ 11:30 ~ 11:45

Y-05 アバカビルによる HLA 多型依存的な特異体質毒性の発現への免疫寛容系の関与

○桑原佐季¹、薄田健史^{1,2}、青木重樹¹、伊藤晃成¹

¹千葉大学大学院 薬学研究院 生物薬剤学研究室、²富山大学 和漢医薬学総合研究所

座長 小島弘幸 (北海道医療大学)、西村泰光 (川崎医科大学)

■ 13:00 ~ 13:15

Y-06 The effect of triterpenoids ursolic acid and oleanolic acid on mitochondria in adult T cell leukemia cells.

○ Mengyue Shen, Ryoko Baba, Kentaro Morita, Duo Wang, Yusuke Sennari, Tamotsu Kanazawa, Yasuhiro Yoshida

Department of Immunology and Parasitology, School of Medicine, University of Occupational and Environmental Health, Japan

■ 13:20 ~ 13:35

Y-07 骨髄由来免疫抑制細胞を介する G-CSF の免疫毒性発現メカニズムの解析

○ 村田雄飛¹、川崎太寛¹、奥崎大介^{2,3}、岡田直貴¹、立花雅史^{1,4}

¹ 大阪大学大学院薬学研究科、² 大阪大学免疫学フロンティア研究センター、

³ 大阪大学微生物病研究所 遺伝情報実験センター、⁴ 大阪大学国際医工情報センター

■ 13:40 ~ 13:55

Y-08 CDAA 食給餌により誘発した NASH 病変の肝線維化亢進における TLR シグナルの関与

○ 宇野絹子¹、美谷島克宏^{1,2,3}、煙山紀子³、中江大^{1,2,3}

¹ 東京農業大学大学院 農学研究科 食品栄養学専攻、

² 東京農業大学大学院 農学研究科 食品安全健康学専攻、

³ 東京農業大学 応用生物科学部 食品安全健康学科

■ 14:00 ~ 15:40 シンポジウム「免疫毒性学の過去、現在、未来」

座長 吉岡靖雄 (大阪大学先導的研究機構)、山浦克典 (慶應義塾大学)

■ 14:00 ~ 14:25

S-01 「多発性硬化症のウイルス誘導性 CNS 免疫モデル：マックス・タイラーと野口英世」

○ 角田郁生¹、鳥山重光²

¹ 近畿大学医学部微生物学、² 元東京大学農学部

■ 14:30 ~ 14:55

S-02 「免疫毒性学的観点からのワクチン開発」

○ 吉岡靖雄^{1,2,3,4}

¹ 大阪大学先導的学際研究機構、² 大阪大学微生物病研究所、³ 大阪大学大学院薬学研究科、

⁴ 一般財団法人阪大微生物病研究会

■ 15:00 ~ 15:25

S-03 「卵巣明細胞癌の発生に関与する“毒物”代謝」

○ 高野政志

防衛医科大学校 産科婦人科学講座

総合討論 15:25 ~ 15:40

9月27日(日)

■ 10:20～11:55 受賞講演

座長 手島玲子(岡山理科大学)

■ 10:20～10:55

学会賞受賞講演

AL-01 「医薬品の in vivo 免疫毒性を予測するための新規 in vitro 評価系の研究」

○井上智彰

元中外製薬株式会社

■ 11:00～11:25

奨励賞受賞講演

AL-02 「HLA 遺伝子導入マウスを用いた特異体質薬物毒性研究」

○青木重樹

千葉大学大学院薬学研究院 生物薬剤学研究室

■ 11:30～11:55

AL-03 「亜鉛欠乏症に起因する免疫機能低下に関する研究」

○木戸尊將

東京慈恵会医科大学 環境保健医学講座

■ 13:10～15:25 試験法ワークショップ

「最先端技術の免疫毒性評価への展開」

座長 串間清司(アステラス製薬株式会社)、足利太可雄(国立医薬品食品衛生研究所)

■ 13:10～13:35

WS-01 炎症性細胞死の1細胞イメージング

○白崎善隆

東京大学 大学院薬学系研究科 生体分析化学教室

■ 13:40～14:05

WS-02 ライブセルイメージングの免疫毒性研究応用への可能性

○黒田悦史

兵庫医科大学 免疫学講座

■ 14:05～14:30

WS-03 組織工学とマイクロ流体デバイス技術を用いた哺乳類の合成生物学

○田川陽一¹、藤山陽一²

¹東京工業大学 生命理工学院、²島津製作所基盤技術研究所

■ 14:35 ~ 15:00

WS-04 医薬品開発におけるヒト免疫生理学的機能の非臨床 in vitro 安全性研究

○久保千代美¹、井上智彰²

¹ 中外製薬株式会社 研究本部、² 元中外製薬株式会社 研究本部

総合討論 15:00 ~ 15:25

■ 15:30 閉会の挨拶

【ポスター掲示 16 演題 web にて 9 月 23 ~ 27 日閲覧予定】

P-01 リン酸トリス (1,3-ジクロロ-2-プロピル) 経口曝露がアレルギー性喘息マウスの肺炎症に及ぼす影響

○柳澤利枝¹、小池英子¹、Tin-Tin Win-Shwe¹、川口真以子²、嶋田努³、高野裕久⁴

¹ 国立環境研究所、² 明治大学、³ 金沢大学附属病院、⁴ 京都大学大学院

P-02 リン系難燃剤 TDCIPP の経口曝露がアレルギー性喘息マウスの免疫担当細胞に及ぼす影響

○小池英子¹、柳澤利枝¹、Tin Tin Win Shwe¹、高野裕久²

¹ 国立環境研究所 環境リスク・健康研究センター、² 京都大学大学院 地球環境学堂

P-03 リン系難燃剤 TDCIPP の経口曝露がアレルギー性喘息マウスの脳神経系に及ぼす影響

○Tin Tin Win Shwe¹、柳澤利枝¹、小池英子¹、高野裕久²

¹ 国立環境研究所 環境リスク・健康研究センター、² 京都大学大学院 地球環境学堂

P-04 Di- (2-ethylhexyl) phthalate は IL-33 存在下において ILC2 のサイトカイン産生を増強する

○長尾慧¹、本田晶子^{1,2}、田中満崇¹、高野裕久^{1,2}

¹ 京都大学大学院 地球環境学堂 環境健康科学論

² 京都大学大学院 工学研究科 環境衛生学講座

P-05 レジンモノマー 2-Hydroxyethyl methacrylate はマウスケラチノサイトからの IL-1 α 産生を誘導する

○黒石智誠¹、梶恭大¹、坂東加南^{1,2}、菅原俊二¹

¹ 東北大学大学院歯学研究科口腔分子制御学分野、² 顎口腔矯正学分野

P-06 石綿曝露による CTL 分化抑制における補助刺激分子の役割

○武井直子、西村泰光、吉留敬、李順姫、伊藤達男、大槻剛巳

川崎医科大学 衛生学

P-07 石綿長期曝露ヒト制御性 T 細胞モデル株における MMP7 発現の亢進と機能解析

○李順姫、山本祥子、幡山圭代、伊藤達男、武井直子、吉留敬、西村泰光、大槻剛巳

川崎医科大学・衛生学

- P-08** **Activation of aryl hydrocarbon receptor by oral administration of benzo (a) pyrene exacerbates the food allergic reaction in a mouse model of OVA-induced food allergy.**
 ○ Hitoshi Tajima¹, Risako Tajiki-Nishino¹, Yuko Watanabe¹, Tomoki Fukuyama^{1,2}
¹ Institute of Environmental Toxicology,
² Azabu University Faculty of Veterinary Medicine, Pharmacology Laboratory
- P-09** **アトピー性皮膚炎に影響を及ぼすパーソナルケア製品の推定と影響評価**
 ○ 丹嵯織¹、本田晶子^{1,2}、宮坂奈津子²、田中満崇²、田村紳¹、岡野人士¹、王造時¹、長尾慧²、李銀鵬¹、韓雪²、上田佳代^{1,2}、高野裕久^{1,2}
¹ 京都大学大学院工学研究科、² 京都大学大学院地球環境学
- P-10** **ブスルファン処置後の精巣免疫毒性と精子形成障害における漢方薬単独または併用投与の異なる治療効果**
 ○ 曲寧¹、伊藤正裕²、隅山香織¹、林省吾¹、坂部貢¹
¹ 東海大学医学部基礎医学系生体構造機能学、² 東京医科大学人体構造学分野
- P-11** **ブレオマイシンで誘導されたマウスの肺線維化症状に対する Skp2 阻害の軽減効果**
 ○ 北川恭子^{1,2}、美甘真史²、辻真弓¹、北川雅敏²
¹ 産業医科大学衛生学、² 浜松医科大学分子生物学
- P-12** **遺伝子マーカーを用いたアジュバント含有経鼻ワクチンの細胞傷害性と有効性評価**
 佐々木永太¹、浅沼秀樹²、百瀬暖佳¹、古畑啓子¹、水上拓郎¹、浜口功¹
¹ 国立感染症研究所 血液・安全性研究部、
² 国立感染症研究所 インフルエンザウイルス研究センター
- P-13** **The roles of unfold protein responses in cholera toxin B-induced interleukine-1 β production**
 ○ Izumi Sasaki¹, Takashi Orimo¹, Isui Harie¹, Yuko Takisawa¹, Ko-ichi Furukawa²,
 Tsuneyasu Kaisho¹
¹ Department of Immunology, Institute of Advanced Medicine, Wakayama Medical University
² Department of Immunology, Lifelong Sports and Health Sciences, Chubu University College of Life and Health Sciences, Kasugai, Japan
- P-14** **SARS-CoV-2 スパイクタンパク質によるマウスマクロファージの炎症性応答とメカニズム**
 ○ 白土健、木崎節子
 杏林大学医学部衛生学公衆衛生学教室
- P-15** **炎症時の血管透過性を抑制する分子機構の解明と炎症・感染症治療への応用の可能性**
 白倉圭佑¹、William Aird²、土井健史¹、○岡田欣晃¹
¹ 大阪大学薬学研究科 生命情報解析学分野、² Harvard Medical School
- P-16** **Detecting immunotoxicity *in vitro*-Clinically relevant studies in the COVID 19 era**
 Shaheda S. Ahmed, Anne M. Dickinson
 Alcyomics Ltd., Newcastle upon Tyne, United Kingdom